

市民力かわら版



地域と取り組むJRのおもてなし

今までもJR矢板駅周辺や駅構内に花を飾ったり、作品を展示してはいますが、五月十四日に初めて東小学校六年生とJR社員との交流の集いが行われました。

- その内容は、児童八十名が四つのグループに分かれ、
- ①バケツ田植え
 - ②矢板のイチオシ掲示
 - ③缶バッジ作成
 - ④踏切内の安全装置体験
- を担当の駅員の指導のもと、順番に体験しました。
これを企画したJR矢板駅の
中川力夫駅長にお話をお聞きしました。

■地域の方との交流を企画

JRとしても地域の人のふれあいや交流が必要と考えていました。また、「駅からハイキング」には、その都度「矢板たかはら米」を矢板市農業公社から提供してもらっ



ているので、駅で稲を育て、米を収穫し、「駅からハイキング」参加者に渡そうと計画しました。このことを農業公社に相談したところ、苗の提供や市の関係者の協力が得られることになり、実現できました。バケツ田植えだけでは、短時間で終わってしまうので、ほかに児童の興味を引くことは無いかと考え、上の四つの内容を行うことにしました。

■児童への期待

駅員のお客様との接し方やあいさつを通して、駅のおもてなしを見てもらい、その精神を多少でも児童に感じてもらえたいと思います。そして、

■二人の担任の先生からは

「田植えは五年生の時に田植えから刈り入れまで体験したことがあったので、その経験を生かしました」「六年生になったので、将来地域の活性化について考えるきっかけ作りになりました」との感想がありました。

■矢板駅が目指すもの

まずは、今日植えた稲の収穫を児童と一緒にやりたいです。ほかに、市民の方との交流を図り、アイデアを出し合っって企画したいと考えています。

昨年も力カシを作り、ホームに飾りました。今年も力

カシを作る予定ですが、できれば、複数の力カシを駅前に飾り、コンテストができれば、と考えています。

矢板駅に来れば面白い、と言われるような企画を考えていきます。

また、高校生を対象に、列車の待ち時間を活用して何か催しができればよいと思います。アイデアがありましたら、矢板駅までご連絡ください。

(T・M)

